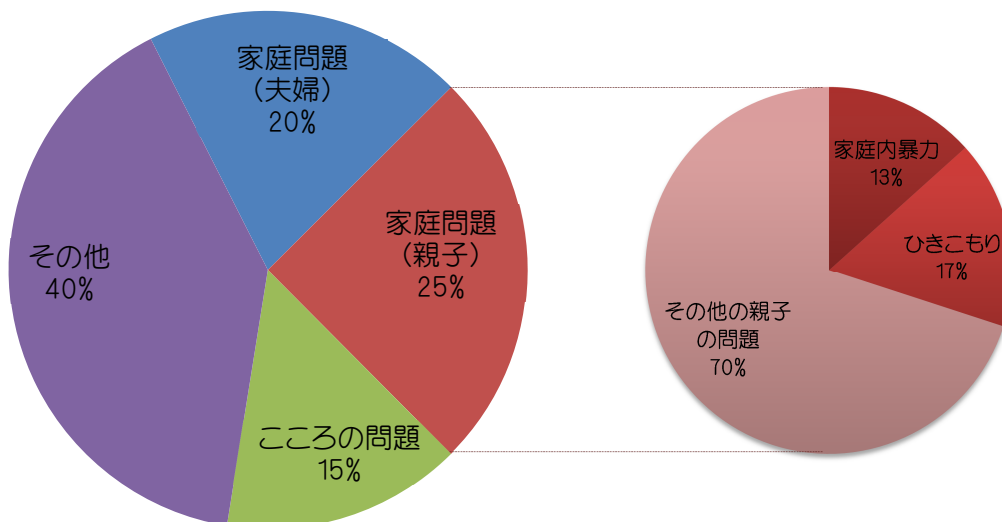


【9月の相談レポート】

9月は「親子の問題」



【図1】2012年9月に寄せられた主な相談案件と「家庭内暴力」と「ひきこもり」が占める割合

9月、日本駆け込み寺に寄せられた相談で多かったのは、「家庭問題（夫婦）」「家庭問題（親子）」「こころの問題」です。この中で一番多い「親子の問題」に注目してみましょう。

この問題は「家庭内暴力」と「ひきこもり」に分類できるものが多いのですが、このふたつは重なり合う部分が多々あります。たとえば、ひきこもりの息子があきつかけから親に暴力をふるうようになった、というケースがとても多い。

相談を受けた時点では「ひきこもりとは無関係の家庭内暴力」「暴力を伴わないひきこもり」に分類できるものが多いので、このふたつを分けて集計していますが、「家庭内暴力」と「ひきこもり」には密接な関係があるといえます。

親に対する暴力や暴言、モノを破壊する行為などもある「家庭内暴力」は、特に深刻な問題です。はれものにさわるような親子関係、暴力によって親が子に支配される地獄のような毎日……。

親子であっても、暴力に対しては警察に通報することも考えるべきです。しかし、警察には民事不介入という原則があり、事件にならないと動いてくれませんし、家庭内の問題に対しては腰が重いところもある。また、親の立場としては、なるべく警察沙汰にしたくない、という気持ちもあります。

「ひきこもり」も深刻です。自分の育て方が間違っていた、と自責の念にとらわれる親も少なくありません。高齢になった親は、40代あるいは50代になっても自立しようとしないうちの子供に対して、「自分が死んだあと一人で生きていけるのだろうか」と心配するようになります。

日本駆け込み寺では、このような問題に取り組む際、当事者だけではなく、親（相談者）の言動にも目を向けます。よく観察してみると、親が不用意に子供を刺激しているようなケースがあります。子供の話を途中でさえぎる、子供に皮肉や嫌味を言う、決めつけるような言い方をします。何気ない冗談のつもりでも、言われた子供のほうは深く傷ついている。そのような言葉や態度が子供をキレさせるきっかけになっていることもあるのですが、親にはその自覚がありません。

「家庭内暴力」や「ひきこもり」などの「親子の問題」は、問題を起こしている当事者のみではなく、家族全体の問題であると認識する。それが解決への第一歩です。

悩み事や困り事があったら日本駆け込み寺へ。ご相談は、以下の電話番号からどうぞ。

◆新宿歌舞伎町駆け込み寺：03-5291-5720

◆仙台国分町駆け込み寺：022-395-7740